

2023年2月10日

第61回関西財界セミナー 分科会議長・モデレーター報告

第1分科会 「企業経営を取り巻く国際情勢と今後求められる企業戦略」

第1セッション論点

- ・近年の国際情勢の大きな変化の要因と、経営課題として国際環境をどう考えていくべきか。

第2セッション論点

- ・これからの日本のグリーン政策・戦略はどうあるべきか、それに対し企業はどのような対応・戦略をとるべきか。

第3セッション論点

- ・米中対立・ロシアのウクライナ侵攻等、地政学的変動に対応し、企業はどのように事業戦略を立て事業体制を再構築していくべきか。

議論の総括

- ・企業は絶えず情報収集・分析を行うとともに、経済安全保障、環境等に関するルール作りと運用について政府とコミュニケーションをとり、リスクの中にチャンスを見出すことが重要。
- ・日本はカーボンニュートラルの実現に向け技術革新に取り組み、アジアのゼロエミッション化に日本企業として貢献する。
- ・企業はサプライチェーンを総点検の上強靱化するとともに、デジタル技術等を活用した社会課題解決や、エネルギーtransitionのためのビジネス展開に向け事業体制を確立することが求められる。

第2分科会 「次世代の国土と関西のデザイン」

第1セッション論点

- ・今後の経済成長や国際競争力の強化に向けた国土のあり方
- ・国土の課題を解決するための、国土政策・経済政策

第2セッション論点

- ・経済成長の核となるための、関西のありたい姿
- ・関西のポテンシャルと、それを最大限発揮するための取組み

第3セッション論点

- ・広域行政・連携に取り組む意義、関西広域の行政のあるべき姿
- ・企業視点での望ましい行政のあり方

議論の総括

- ・急激な人口減少を見据えて、複眼型の国土形成、地域生活圏の形成をめざすべき
- ・災害等に備え、官民双方のデュアルオペレーション体制の構築を促進すべき
- ・関西の成長戦略として、海外人材の活用を含めた人材不足への対応、インバウンドの広域周遊の促進、CNやSDGsの推進等が重要
- ・府県の枠を越えた広域行政・官民連携を進め、関西広域連合を全国のモデルとすべき

第3分科会 「アジアのオープンイノベーション拠点をめざして」

第1セッション論点

- ・オープンイノベーション成功のためのキーファクター、関西の強み・弱み

第2セッション論点

- ・企業のオープンイノベーションの課題とは
- ・オープンイノベーションを推進するために必要な組織改革とは

第3セッション論点

- ・関西はどのような未来図を描くのか

議論の総括

- ・企業の枠を超えた関西広域でのオープンイノベーション、人材育成・交流の強化と情報発信、経営者によるさらなるコミット。
- ・Z世代、ミレニアル世代など多様な人材の感性を活かしたオープンイノベーションの環境づくり。
- ・日本からグローバル展開するスタートアップへの積極支援
- ・万博を契機とした、海外の有カスタートアップやVCなどを関西に呼び込む環境整備と実証・実装の基礎をつくり、スタートアップ、オープンイノベーションの拠点をめざす

第4分科会 「30年間、我々は何を間違ってきたのか」

第1、2セッション論点：経済政策

- ・我々（日本全体、日本企業）の30年間をどう評価するか？
- ・経済政策を巡る官民の対話、協働は適切だったか？

第3セッション論点：人づくり

- ・企業は熱量のある人材を適切に処遇・育成できたか？
- ・「組織と個人」の関係性がどう変化しているのか？

第4セッション論点：企業経営

- ・これまでに「欠けていた」「誤っていたもの」ものは何か？
- ・経営者として何を変えていくべきか？

総括

- ・「反省なき30年」：過去を振り返る議論をしてこなかった
- ・「ビジョンなき30年」：「重ね着」の政策、目先の企業経営
- ・「対話なき30年」：官民、若手、起業家らとの対話不足、形式化
- ・変化し続けるためチャレンジすべし、変わるか去るかの覚悟を

第5分科会「30年後、私の『カイシャ』はどうなっているのか」

第1セッション ・30年後の社会とカイシャ ～延長線上の未来をみる～

第2セッション ・30年後の経営

第3セッション ・30年後の人材活用 ～誰が(何が)担うのか～

第4セッション ①30年後に向けた投資
②30年後のわが社のために、いま突破しなければならない壁
③後継者に託すもの

第5セッション 今日から私は〇〇する

- ・いま変わらなければ、30年後のわが社はない。
- ・経営者が知る世界は実は狭い。多様性がなければ変われない。
- ・変わるために、社内外の若者・子供と対話する。
- ・自社の人材・リソースだけでは勝負できない。人材は社会共通の財産。
- ・チャレンジ環境を構築し、攻める領域は若者に任せ、挑戦させる。
- ・30年後を見据え、いまやるべきことをやる。次世代に先送りしない。
- ・実践してこそ、財セミの意義がある。